

令和6年10月4日

◆鈴木ひでし委員

私からは数点というよりは、常任委員会とは違うわけだから質疑が深まるということではなくて、ちょっと気がついたところを何点かお聞きしたいと思います。

第1点は、第8次保健医療計画、読んでいて総論の中で11ページ、受療状況と書いてある。特に神奈川の場合は、脳血管疾患や精神疾患が全国平均を大きく下回っている。特に精神疾患というのは異常なほど受療状況というのが大変厳しいグラフが出ていると。これを見た中で、各論の中に入って精神科救急を見たところ、いつでも身近なところで安心して受けられるような精神救急医療体制の充実を図ることが課題だよと書いてある。

ところが、私がすごく心配したのは、いろんなデータを通じて論理的に書かれているんだけど、精神科救急のところだけずぼっと抜けて何か現状を書いているだけというのを見て、私はすごく心配したということなんです。これどうして、そもそもこれ何で受療状況が少ないの。

◎医療企画課長

基本的に国から提供された情報と、それから県で用意できる情報と整理をしてやっているんですが、ちょっとぶっちゃけた話で言うと、やっぱりそこら辺のデータ分析自体についてやっぱりちょっと行き届かないところは正直ある部分はあるので、そこら辺、正直言うと試行錯誤しているところは多分にあると思います。

◆鈴木ひでし委員

それで、課長にお願いしたいのは50ページのところ、ロジックモデルだけど、うだうだうだうだいっぱい書いてないで、私は基本的に受け入れるところがそれだけないんだと思うんです、正直言って、ここでぶっちゃけた話で。アウトカムがうだうだうだうだいっぱい書いてあるんだよ。だから、何を言いたいんだと。普通の人が見たって分かんないよ、こんなの。だから、基本的には受入れがあって、全部受入れしたら100%、何%で、それ100%を目指すみたいな、要するにしっかりとした指標をつくらないと。このロジックモデルなんていうのは、ここの議会の中でもってやっている人は分かるけれども、いっぱい書いてある中でもって何を言いたいんだろうと、中間アウトカムとか。失礼ですけれども県民の中でアウトカムという言葉自体だって、失礼ですがこの言葉が分からない方、いらっしゃると思いますよ。こういう、何と言ったらいいのかな、そんなことはないんでしょうけれども、正当性は分かるんだけど、やっぱり県民にわかるようなアウトカムにする、そういう一つの手法をぜひともお願いしたいと思いますけれども、いかがですか。

#### ◎医療企画課長

このロジックモデルについては、御承知のとおり今回の計画からつくりました。これまではどちらかというと、事業を行ったアウトプットとして何があったかという、要は事業を行った結果として何の成果があったのかと、その成果だけで見がちで、実際本当に最終的な目標となるべき、例えば死亡者数を少なくするとか、そういったことに対してなかなか直結していない評価が多かった。今回のロジックモデル自体については、最終的に例えば死亡者数を少なくするということから逆算していった、どうしたらこの死亡者数を動かせるかというところでやろうとしたので、確かにちょっとまどろっこしいというか一般的には分かりづらいというところがあるかと思うんです。大目標を掲げて、その大目標に対して事業そのものというのが大分遠い部分もありますので、なのでそうすると、その事業をやっただけでそれが多くの方には分からないので、どうしてもいろいろと指標を出して比べてみようということになっているんだと思うので、ここの部分については、御意見は御意見としてよく分かる部分もあるんですが、そういった国から提示された指針に基づいて今やっているの、これでまずはちょっとやってみて、その評価をする中で検討していきたい、このように考えております。

#### ◆鈴木ひでし委員

国だけじゃないよ、私がEBPMをしっかりとしろということで政策に投げて、これロジックモデルってできたんだけど、これじゃあまりにも、要するにどこがどうなのか分からないというものも見たので、これきちっともう一度対応していただきたい。これ見ても、いきなり最終アウトカムについてだって、これじゃ分からないよ、要するにキャパがあってどうなっているかというのが分からないので、これきちっとやっぱりしていただきたい。それを一つお願いしたいと思います。

今回の特別委員会の資料を見させていただいて、ちょっと何点か、デジタル、デジタルといっぱい書いてあるけれども、この神奈川県庁の中でどこにデジタルがあるんだろうと私は正直言って思っている。その中で、まず最初にイントロから、この9ページの県の取組の神奈川DX計画、ざっと読ませていただいた。失礼ですけれども、これ書いてあるのはいいけれども、これ推進計画とかあるの。これも何か失礼ですけれども、だらだらだらだとロボットだって20年もかかったっていまだに導入してないこの神奈川県が、やれロボットだ、ああだこうだとわっと書いてあるんです。とにかくあなた方、字を書くの好きだから、字がいっぱい書いてあるんだよ。これそもそもDX計画の中で総論として、どういうふうなDXというようなものを県庁とかまた県に求めているのか。それに対する進捗状況というのはどういうふうにするの、これ。こんなので終わっちゃうの。

#### ◎デジタル戦略担当課長

神奈川DX計画ですけれども、本編のところにつきましては、DXを進める上での基本的な考え方といったようなものを盛り込んで作成しております。各

個別の実施計画のところをしっかりと進捗管理していくことで全体の把握をしていきたいと考えております。

◆鈴木ひでし委員

進捗管理ってどうやってやるの。

◎デジタル戦略担当課長

各事業ごとに個別に設定しております達成指標等を基に、庁内の調査をして把握してまいります。

◆鈴木ひでし委員

いや、そういうこと聞いているんじゃないよ。県民にどういうふうに知らせるんだというの。今あなたの言っているのは、県庁内のことでしょう、議会に報告とか何とかというの。あなたが今進めているいろいろな一つ一つのことについて、あなた方が言っているPDCAサイクルもひっくるめて、最後のアウトカムというのはどういうふうにして出すのよ、県民に対して。計画ってあるんだから、それに対してもきちっとした結論がなきゃならんだろう。その結論をどうやって出すのと私は聞いているの。途中の、例えばここまでできています、ああだこうだという進捗状況というのは、あってもいいじゃない。計画ってそのために立てるんでしょう。それ、どうするんですかと私は聞いているの。

◎デジタル戦略担当課長

把握した進捗につきましてですけれども、このように議会の皆様方の方での御報告ということもございますし、また、県のウェブサイト等でもしっかりとした報告をしていくような形と考えております。

◆鈴木ひでし委員

そんなこと聞いてないけど。委員会が違ったら、あなたとかと多分私、会うことはないと思うよ。全体にどういうふうにして知らせるんだと。それだったら計画のための進捗状況という、例えば推進計画とかあってしかるべきだろうと、これに対して。どうするのと聞いているんだよ。

まあいいや、常任委員会じゃないから。そういうことは頭に入れておいてください。

二つ目、これ見ていて私、齊藤さんが室長の頃から言っているヘルスケアもICTシステムの中にあるこのマイME—BYOカルテ、これ失礼ですけどもいつまでやるの、こんなのと言ったら怒られるけれども。だって、そもそもがこれだけマイナポータルが充実してきて、普通のスマホ持っている方たちはみんな歩数も全部出て、体重なんて意識がある人は毎日のように見えていますよ。そういうのは、これどうするのかね、今後。これ、これだけのもう相当な年数がかかってこれやっているよね。

さっき課長さんの答弁の中で、選考会派の、今回肉とか魚とか出したじやな

い。私のところも来たよ、それこそプッシュ型で。だけど、そこに参加したのは1万3,900人と言うんでしょう。登録しているのは130万だよ。何でこんな1万3,900人ぐらいしか使っていないということなんじゃないの、これ裏を返したら。

要するに今日的なものと、そもそもは何で県がやらなければならないのという時代がもう来ちゃったんじゃないですかと私は言いたいよ。要するに、1万3,900人ぐらいのために税金を使ってこういうことをやること自体、いつまでやるのと。そろそろ期限を切ってやめるものはやめて、だって断捨離と言ってるんだから知事が。切るものは切って、マイナポータルに移すような、あなた方が本来なら牽引していくのが県の姿なんじゃないかと私は思いますよ。そもそもだって、あなた、電子母子手帳だとか民間のアプリだとか国のポータルとの連携によって、連携しなくたってそこでもって申請すれば済むことですよ、これ。何でこんなことまでしなきゃならないんだろうという素朴な疑問ってあるじゃない。これどうするの、いつまでこれやるの、これ。齊藤さん、答えてもいいけどさ。いつまでやるの、これ。

#### ◎デジタル戦略担当部長

その点については、委員のほうから昨年の6月の本会議でも質問いただきまして、知事のほうから検討してまいりたいというふうに答弁させていただきました。委員からの要望にも、知事が断捨離と言っているのであれば、そういったところも示すべきであろうというふうに頂きました。まさに、それ以降でもなくてなんですが、私のほうでもどうやってやっていくべきかというのは思い悩んでいるところではございますが、委員御指摘のところ、様々にアプリというのも広がってきて、みんな選べる状況になっています。それを行政がやるのかというのは、おっしゃるとおりかと思います。そういったところを含めて、聖域を設けず選択肢を幅広に持った上でしっかり検討して、判断の上、実行していきたいと考えております。

#### ◆鈴木ひでし委員

立派な答弁、ありがとうございます。

その中で今度は、「h オープンデータの取組」、これは失礼ですけども、オープンデータって何。素朴な疑問で、そもそもオープンデータとはどういうものですか。

#### ◎デジタル戦略担当課長

オープンデータですけども、自由に二次利用ができる形で、そして特別な権利も与えることなく利用できるデータのことをオープンデータと呼んでおります。

#### ◆鈴木ひでし委員

その前に、誰でもできる前も、簡単にとって書いてあるんだよ。ところが、このオープンデータ、少なくとも私が開いたページが間違っていたら許してね、

ウェブサイトでもって神奈川県オープンデータとやると一覧が出てくるんだよ。それ、みんなデータによってPDFだよ。それで、左側に出ているのはみんなエクセルのマークがついているけれども、どこに飛ぶんだか分からないけれども、一生懸命URLだとここに飛びなさいみたいのが書いてあって、使い勝手とか何とかって言うけれども、オープンソースじゃないだろう、こんなのと私は思ったんですけれども、どうしてこんな使い勝手の悪い物を平気でオープンデータなんて呼んでいるのかなと。

#### ◎デジタル戦略担当課長

オープンデータの公開についてですけれども、現在は今年の2月、令和6年2月よりオープンデータ専用のサイトを設けまして、オープンデータカタログサイト、こちらのほうでより検索しやすい、また提供しやすい形ということで公開方法は改めております。

そして次に、データで今、委員から御指摘のありましたPDFばかりという点でございますけれども、確かに今上がっているデータの約4割はPDFになっているところがございます。こちらについては、過去のデータ等でPDFしか原本がないようなデータは現在、出さないよりましということで、PDFでそのまま出しておりますけれども、現在の新しいデータを出すときには必ず、使いやすいエクセルもしくはCSVといった再利用しやすい形、さらには重ねて、閲覧しやすいようにPDFと両方併せて出すなどの工夫をしております。

#### ◆鈴木ひでし委員

CSVとか言うけれども、開いてとんでもないURLのところへ飛んで、そこへ行ったら物はありませんと出るんだけど。今改めて言っていることというのは、分かりますか、オープンソースの話をしているんだよ、これ。失礼ですけれども民間企業の話をしているんじゃないんだよ。税金を使って、あなた方がオープンデータの取組とわざわざ書いてあるから、私聞いているんだよ。こちらにつくりましたなんてカタログなんて、どこにあるか私は分かん。要するに、普通にアクセスをして、出てきているページの中でしか私の今の質問はないの。あなたからすれば、それつくっている当人なんだから、ここにありますということで、そのカタログというのがもし万が一すぐに見えないものであったならば、オープンソースでも何でもないじゃん、そんなの。あなたも一度入れてください、グーグルでもどこでもいいから、ググってみてください。出てくるのは、カタログというのじゃなくて、神奈川オープンソースと出てきたのからいくと、みんな、失礼ですけれども、CSVにしたってどこかともないところに飛ぶよ。そこにはない出てくる、何個も。

私は、このオープンデータの取組というようなことを元気に書かれているけれども、いかなるものなのかなと思ったので今質問しました。常任じゃないので、これで終わって結構ですけれども、そのところ、御覧になったほうがよろしいかと思いますよ、後ほど。

次です。18 ページ、データ分析支援件数の推移というようにところに飛ばせ

ていただいて、この5年の支援事例と書いてあるけれども、この支援といううなものの中に、このデータ分析って私、ちょっとここは、東海道新幹線の駅の誘致の活動のアンケート設計と分析というのを見させていただきました。どうもこれ、浜銀か何かに委託して作ったものなんですかね、これ。文書が出てきて、またこれもすみません、グーグルの中でもって出てきたものしか見てないんだけど、失礼ですけども、これも委託してアンケート設計と分析というのをされたんですか。

#### ◎デジタル戦略担当課長

私どものところでは、アンケートの設計、元のアンケートの設問設計のところで、それからアンケート結果の分析について支援をさせていただいております。そのアンケートの設計に際しましては、私どもで委託事業として発注して来ていただきましたデータサイエンティストの事業者の皆さんの御協力を頂いてアンケートの設計を行っております。

#### ◆鈴木ひでし委員

ということは浜銀さんの、要するに私が見たものでよろしいんですかね、違うのかな。

#### ◎デジタル戦略本部室長

我々が事業を決め打ちして委託したというよりは、このデジタル支援ということ丸っと全体をまずやって、その中から各所属から上がってきたもののうち、これはこの委託の中でやってもらうのがいいかなというふうにやったことなので、外向きにこの東海道新駅の関係のアンケートの分析について委託をしたというところは、我々ではやっていないです。

#### ◆鈴木ひでし委員

分かりました。とても難しい中身を見るので、そもそも本来だったらどんな支援だったんだと私が聞きたいぐらいだけれども、一応それで分かりました。

最後に聞かせてくださいな。

最後、少し気になったのはノーコードツール、これ22ページにあるICTのインフラあるよね。このセキュリティクラウドってあるじゃない、ここにつながるの。

#### ◎デジタル戦略本部室長

ここにはつながらないです。従来型と同じでインターネットには接続しないで中に入れてやるものなので、クラウドとは関係ないです。

#### ◆鈴木ひでし委員

でもさ、本来だったらこのところにあるものであれば、みんなで使うものであるならば、ここもあなた方が大好きなKSCに入れるべきなんじゃないの、これ。

◎デジタル戦略本部室長

K S Cって、例えばこの絵でいきますと 23 ページ、コンピュータセンターというものがございます。このコンピュータセンターのメインサイトというところに集約されるというものになります。K S Cについては、このメインサイトからインターネットに出るときに神奈川情報セキュリティクラウドというのをを使うわけですが、このコンピュータセンターはインターネットに出ない中でネットワーク化されたものを使うときに使っておりますので、この中に集約されるということになります。

◆鈴木ひでし委員

私はね、この右側に出るインターネットのことは分かっているんだよ。そうじゃなくて、庁内なんかのメールのやり取りにしたって、動画が送れないとか Z I P で送られてくるんだよ。そういうような使い勝手の悪いところに、またこんなものぶち込むのかなと私は思ったからさ。あなた方、知っている、本当にちょっとしたものもみんな Z I P で送られてくるんだよ。それ解凍するのでえらい時間かかって、中には解凍できないんだよ。こんな不自由なことって、何がデジタルだと私は思っているわけよ。それも庁内でもってメールで送ってくださいと言っているのだから、ここを例えば K S C から、あなた方が書いたこの真ん中の×ついているところの、これ容量どのぐらいなの、これ。

◎情報システム担当課長

基本は 10 ギガの回線を 3 本使っております。

◆鈴木ひでし委員

もっと太くできないの、これ。もっと太くしたら、逆にセキュリティやばいのか。

◎情報システム担当課長

そこは通常業務で使う回線の使用量と、あとはそのコストの見合いの問題だと思います。お金をかければ、それだけでももちろん太くはできますが、がばがばになってもしょうがないので、適正なサイズ感というものを通信量から逆算して運営しております。

◎デジタル戦略本部室長

回線については、適宜増強しているんですが、そういう事象を踏まえてということではないんですけれども、回線の状況には一応取り組んでいると。今年度もちょっと工事をしてくれる部分があるんですけれども、ちょっとお待ちいただければと。

◆鈴木ひでし委員

それ聞ければいいよ、安心した。これ以上 Z I P だ何とかなんてやめてくだ

さいな。本当に疲れちゃうよ。失礼ですけども、どこどこで例えば皆さん方が行って、最近の写真だけじゃないじゃん、どこかでちょっと動画撮ってきて、あそこに送ってくださいなんていったとき、本当に大変だと思うよ。こんな細い回線の10ギガなんて使っていないで、神奈川県でもってこういうところを本来ならDXだ、ああでもないこうでもないというようなものであるならば、きちんと太い回線を使って流して差し上げなかったら、もうここにいる方だってみんな、ほら、うなずいている人、何人かいるじゃない。私だって本当に迷惑千万。資料を送ってきてくれて、ZIPでもって開けたら開かないんだよ。ソフトが違ふときなんだか開かなかったりして、本当に県庁はどうなっているんだろうと。そうかと思うとこんな申し訳ないけれども、そこら辺からDXだ、ああでもないこうやって書いてあるから、どこにあるんだと、そんな姿がということで、半分怒りを持ってお話をさせていただきました。